

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 古勝 隆一					
配当 学年	全回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	儒家經典注釈研究										
【授業の概要・目的】											
<p>中国南朝時代(4-6世紀)の儒教經典注釈を代表する、皇侃(488-545)『論語義疏』を精読する。本年度は、特にそのうち八#20350篇を読む。</p> <p>『論語義疏』の文章は読みやすくなく、しかも、『論語』全篇の中では難解な部分を選んで読むため、受講者全員による事前の準備が必要である。あわせて、礼についての知識の習得も目指している。</p> <p>本年度は、単に『論語義疏』の内容理解を目指すだけでなく、同書の内容をこなれた日本語に訳出することを目標にしている。受講者の積極的な参加を期待する。</p>											
【到達目標】											
<p>以下の四点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 礼学を理解すること。</li> <li>・ 經学注釈の読解力を養うこと。</li> <li>・ 漢籍写本を校勘すること。</li> <li>・ 『論語義疏』の内容をこなれた日本語として訳出すること。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回の授業は、ガイダンスとし、資料の紹介、工具書の使い方、読解の具体的な進め方について紹介する。</p> <p>第2回以降は、学生諸君の分担により、『論語義疏』八#20350篇の読解を行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 概説書程度の現代中国語を読んで理解できること。</li> <li>・ 現代中国語の正しい発音ができること。</li> <li>・ 正しい日本語を書くことができること。</li> </ul>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点による。平常点は出席状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。なお、読書経験・知識の乏しい受講者に対しては、到達点の高さを評価するのではなく、成長の度合いに応じた評価をする。</p>											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(演習)(2)

### [教科書]

授業中に指示する  
必要なテキストはPDFにて配布する。

### [参考書等]

(参考書)

毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。  
『新華字典』『古代漢語詞典』『辞源(修訂本)』(いずれも商務印書館)、もしくは『王力古漢語字典』(中華書局)。

### [授業外学習(予習・復習)等]

事前に工具書類を用いて文意を読み取っておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

前期に開講される「儒家経典注釈研究」をあわせて受講することが望ましい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。